

FD・SD活動報告書

令和5(2023)年度

羽陽学園短期大学

令和5(2023)年度 FD・SD活動報告書

目次

1. 令和5(2023)年度 羽陽学園短期大学のFD・SD関連事業について	1
2. 令和5(2023)年度 FD・SD推進委員会事業計画	2
3. 令和5年度 FD・SD研修会	5
4. 令和5年度 第1回FD・SD懇談会(5月)	9
令和5年度 第2回FD・SD懇談会(7月)	11
令和5年度 第3回FD・SD懇談会(9月)	12
令和5年度 第4回FD・SD懇談会(11月)	13
令和5年度 第5回FD・SD懇談会(12月)	14
令和5年度 第6回FD・SD懇談会(1月)	15
5. 2023年度山形県私立短期大学協議会主催合同研修会	16
6. 令和5年度 公開授業(授業検討会)	18
7. 第25回基盤教育ワークショップ参加報告	28
8. 令和5(2023)年度卒業時満足度調査	35
9. 令和5(2023)年度授業改善アンケート(前・期)	38

令和5年度の羽陽学園短期大学のFD・SD関連事業について

FD・SD推進委員会委員長 伊藤 和雄

今年度も新型コロナウイルスへの感染予防対策を行いながら、いくつかの活動を行った。

定例FD・SD懇談会は、年間6回(内学生参加4回)行った。また、FDネットワークつばさによって行われてきた会議や大学間連携SD研修会等も、オンラインでの研修、また対面での機会が増えてきた。

学内公開授業については、後期に教員全員対象で同じ授業を参観する形で行い、授業検討会を実施することができた。来年度においても公開授業参観と授業検討会をセットで実施したい。

授業改善アンケートについては、昨年度と同様にグーグルフォームを利用し、スマートフォンによるアンケートにて実施した。

授業については、全員マスクを着用し、座席は原則固定机間の間隔を十分に確保し、手指消毒、換気をしっかり行う等の対策をとりながらずっと対面授業を行ってきた。

どのような状況下においても本学は幼児教育や保育、介護福祉について学ぶ大学である。そして、人と人が関わることを最も大事にする仕事をする人を養成、育成する教育機関である。これからも、授業の改善に日々努め、人、社会に貢献できる人材を養成していきたい。

令和5年度 FD・SD推進委員会事業計画

◇事業内容

(1) 定例FD・SD懇談会

別記の月間目標や懇談会テーマについて各自の取り組みを検証し、意見交換を行う。学生FD推進のため、定例FD・SD懇談会への学生の参加については継続する。

(2) 公開授業－授業検討会

公開授業については、後期に特定の教員の公開授業を設定する。公開授業については授業検討会とセットで進める。

(3) FD個人目標－自己評価

前年度の自己評価を踏まえ、各教員が年度当初に具体的な目標を揚げ、年度末にその自己評価を行う。目標と自己評価は掲示とFD報告書へ記載し、公表する。

(4) 授業評価

全ての授業で行う。専任、非常勤ともにフォーマットの授業改善アンケートを用いる。

(5) 卒業時満足度調査

今年度も実施する。教授会で報告し担当部署には学生の不満を検討してもらう。

(6) FD・SD活動報告書の作成

内容を精査の上、記載事項の取捨選択を行い、紙面のさらなる充実を図る。

(7) 学外企画への参加依頼/相談

学外のFD・SD企画、研修などには可能なものに参加し、情報収集に努める。教職員の大学運営への参加意識を高める。

(8) FDネットワークつばさとの連携

学生が参加できる事業については、早期に呼びかけ学生の興味を喚起したい。他大学の学生との交流を通して、広い価値観を持った学生に育成する。

(9) 新規事業の企画・学内ワークショップの企画案

教員懇談会、学内ワークショップで「授業改善アンケート、学修成果等アンケートの結果」をテーマにする。教員懇談会、学内ワークショップへの学生参加。ゼミ活動について見直す機会をつくる。

(10) 学生FDについて

教員懇談会等への参加を含め、学生とともに羽陽学園短期大学の教育をつくりあげていく意識を浸透させる。

OFD・SDの基本目標

- FD・SDは学生の学びの質向上を目的とし、以下の基本目標を達成するために教職協働で取り組む。
- 「学生の学ぶ意欲を駆り立てるような働きかけを行う」
 - 「学生が自らの行動について振り返り、自ら成長できるように働きかける」
 - 「学習に適した授業環境づくりに努める」

OFD・SD月間目標と定例FD・SD懇談会（原則、教授会開催日の12時25分～12時55分）進行分担

月間目標や懇談会テーマについて、自らの教育活動や職務を振り返り、それぞれの教職員が対等な立場で意見交換を行う。また学生の現状、学習状況などについて、情報を交換できる機会にする。（昼食無、12:25～12:55実施。初めの20分が懇談、残り10分が発表・まとめ。）

- 4月 目 標：「各教員の年間FD教育目標を設定し、公表する」
「教職員側から積極的に学生と挨拶を交わす」
- 5月 目 標：「学生の声をよく聴き、不安を和らげることに努める」
テーマ：「学習成果アンケート集計結果から教育改善について考える」5/25（木）
司会：伊藤 記録：渡辺
- 6月 目 標：「実習体験について学生と話をし、学生の振り返りを支援しよう」
- 7月 目 標：「学生が適切な身なりの認識をもつことができるような働きかけを行う」
テーマ：「実習前の指導について」（学生参加・1年生）7/28（木）
司会：木村 記録：宮地
- 9月 目 標：「年間目標の中間評価と修正を行い、課題を明らかにしよう」
テーマ：「良い授業とは」（学生参加・学友会）9/28
司会：松田 記録：白崎
- 10月 目 標：「学生とのコミュニケーションで分別ある使い分けができるような支援を行う」
- 11月 目 標：「学習環境を整えるために何ができるかを考えよう」
テーマ：「学生が学校に求めること」（学生参加・専攻科）11/30（木）
司会：花田 記録：小田
- 12月 目 標：「ゼミの活動を振り返ろう」
テーマ：「社会人経験者から見た羽陽短大・これいいの？これいいね。」
（学生参加・訓練生等）
司会：白崎 記録：伊藤 12/21（木）
- 1月 目 標：「2年間、あるいは1年間の学生の成果を見つけて、褒めよう」
テーマ：「授業改善アンケート集計結果から授業改善について考える」 1/26（木）
司会：高桑 記録：城山
- 2月 目 標：「今年度の自らの教育活動を振り返り、課題を見つける」
「来年度に向けた明確な教育活動の展望を立てる」

- ※ 学生の弁当注文(500 円相当)は学生参加懇談会月担当の FD・SD 推進委員会委員が行う。
- ※ 欠席される場合は早めに記録担当へご連絡ください。FD・SD 懇談会に参加できず、司会、記録が担当できない場合は、他の月と交換してください。

令和5年度 FD・SD研修会

日時：令和5年4月20日

16時～16時50分

場所：本学5号室

内 容：「Slack」の使い方について」

講 師：城山先生

参加者：渡邊学長、高桑、花田、荒木、高橋(寛)、大関、白崎、宮地、伊藤(和)

木村、渡辺、星、浦山、伊藤(一)、芳賀、高橋(明)、本間、

- ・短大の業務効率化、ペーパーレス化の一助となるよう Slack についての紹介、設定方法、使用方法、操作方法を学ぶ。
- ・ Slack でのコミュニケーションを「楽」を生み出す一手段として、「使えそうと思ったところ」から模索しながら活用していく。
- ・ コミュニケーションツールとして親しまれている Slack は、仕事の効率に役に立ち、チャンネルに情報やメンバーを1つにまとめることで、仕事の効率を向上させることができる。
- ・ Slack では、チャンネルと呼ばれる専用の場所で会話を整理し、グループ毎にチャンネルを作成すれば、仕事が整理されてわかりやすくなり、必要なメンバーと情報を1つの場所にまとめることで、グループで情報を共有し、仕事を進めることができる。

記録：伊藤(和)







日時：2023年5月25日（木）

場所：本学会議室

出席者：学長、荒木、高橋寛、高桑、松田、花田、大関、宮地、伊藤和、白崎、小田、城山、木村、浦山、本間、渡辺、

司会：伊藤和 記録：渡辺

月目標：「学生的心声をよく聴き、不安を和らげることに努める」

テーマ：「学習成果アンケート集計結果から教育改善について考える」

懇談内容

<1グループ>（高桑・松田・小田・木村）

- ・アンケートのデータを見ながら、授業の在り方を考えることができた。学生のコメントからは、スライドの提示方法・時間等で本年度に改善できるものがあった（スマホの使用の可否・使用させる場合の状況）。
- ・学生の受講態度は、教師によって態度を変えている。私語で、学びたい学生が迷惑を被る事もある。学生の受講態度等の情報を、教員の中で共有していく事が必要とも感じる。自分が教員になった時のことを考えられるよう、そんな教員も育てていかなければならないので、どうしたらいいものかと思う。
- ・パワーポイント作りの公開授業（小森谷先生）等で、学ばさせて頂いた。作業が入る授業は学生も取り組む。授業を見る場が様々な場面であると有難い。継続の方向でお願いしたい。

<2グループ>（学長・宮地・白崎・大関）

- ・学修時間が低下していること、欠席数の事・提出物等の事が話題に出ました。宿題を出しても、やってこない、また、その見直しができいていない、などの話題が共有されました。
- ・宿題に集中できる環境をつくっている。今、学生がスマホを触るように学習させられてしまっている。自己管理の教育などをしていく、変えていく必要があるのではないかという話題をした。

<3グループ>（荒木・高橋・浦山・渡辺）

- ・アンケート結果を見ながら、若者の様子が変化したのかという話題から話し合われた。授業を聞いているようで聞いてない。「分かりましたあ。大丈夫です。」と言うが、分かってない。欠席が4、5回になった事を指摘しても、切実感がない学生。特に幼教科がその傾向にある。専攻科になると国家試験もあり自分事になってくると考える。勉強するという状況を家庭でつくる。私たちがもう少し厳しく授業をつくる。
- ・授業の在り方を考えることも話題になる。講義と演習では、差が大きく出る。演習の方はまだ良いが、講義になると授業が難しくなる。授業への参加を考慮して、一度おしゃべり等が気になったとき、クラス活動のように30分ほど学生に与えて、学生が自分自身で動くような課題解決させたことがあった。学生に自由度を与えてやると、結構自分たちで取り組むことができていた。その様な授業を採り入れていく事も方法である。

<4グループ> (花田・伊藤和・本間・城山)

- ・家での学修時間をつくる努力をする。学修時間にばらつきがある。次の時間に必要な家庭での課題をやってこなくて、授業時間内にやらざる終えない事がある。学修しないことが、それでいいやと思わせない工夫が必要である。理解度は高めの点数を頂いているので、時間外にも意欲的にやってくれるといいという感想でした。
- ・専攻科は幼児科に比べると、学修時間は高い。それでも、2021 と比べると低くなっている。後期には比べると高くなっているなので、後期にやる気をもった子が高めたのではないか。
- ・音楽とか活動系は、数値も高くしっかりやっているとみえるが、ピアノ自習室を利用している様子を見ると、最近減っているようにも感じることもあり、授業で2年次がなくなったことが最近影響しているのかなという話をした。

<まとめ>

- ・項目で高い割合のつく授業は、授業外の学修時間比率も高い割合になる傾向がある。
- ・学生が学修しやすい環境をつくってあげるのは、先生方の力量も関係するが、教師の工夫が大切。
- ・教授方法につきましても、他の先生のやり方を是非、学んでいただきたいと思う。
- ・まずは、学生たちが学びやすい環境をつくるのが教職員の使命ではないかと考える。

7月 定例FD・SD懇談会記録

日時：2023年7月27日（木）

場所：本学会議室

出席者：学長、荒木、高橋寛、高桑、松田、花田、渡辺、大関、伊藤和、白崎、小田、城山、木村、星、菅野、宮地

司会：木村 記録：宮地

学生：1A 猪股凜香 1B 羽柴蓮亜 1C 細矢星音 1D 齋藤寧々

月目標：「学生が適切な身なりの認識をもつことができるような働きかけを行う」

テーマ：「短大生活を送ってみて不安に思う事」

懇談内容

<1グループ>（学長、花田、木村、1B 羽柴蓮亜）

- ・前期試験は初めての試験があるので、勉強の仕方が分からなく不安である。レポートを書く際、パソコン操作が不慣れで手書き中心になってしまう。今後慣れていきたい。
- ・10月に教育実習が始まるため、それに向けて講義や実習指導をしっかり受けて臨みたい。

<2グループ>（高桑、松田、渡辺、城山、1D 齋藤寧々）

- ・初めての实習で失敗することの不安がある。→園の先生方や巡回指導があり、フォロー体制はしっかりしているため安心して挑戦してきてほしい。実習で1人1人の子ども達に対応できるか不安である。→経験を積むことが大切。
- ・学生だけでなく、教員だって不安を感じることもあるが、周囲に相談したり、多くの経験を積むことで解消している。失敗を恐れずに色々なことに挑戦してほしい。

<3グループ>（荒木、白崎、菅野、宮地、学生1C 細矢星音）

- ・学生（1C 細矢星音）には保育士の資格を取得後、夢がある。やりたいことを叶えるために頑張れるので不安はあまり感じない。大変前向きな姿勢に教職員側が元気をいただいた。

<4グループ>（大関、伊藤和、小田、星、1A 猪股凜香）

- ・学生（1A 猪股凜香）には不安はない。授業の時間は長く感じず、充実している。先生達との関係も高校より良く、相談できる環境に満足している。

<まとめ>

- ・学生自身が不安のあることを相談できる、抱え込まないような環境づくりを今後も続けていく必要がある。今回色々な学生の話聞くことができたことから、学生の意見を取り入れ、教職員と学生が一緒になって学校づくりをしていくことが大切であることが再確認できた。

9月 FD・SD懇談会記録

日時：2023年9月28日（木）

場所：本学会議室

出席者：渡邊、荒木、高橋寛、高桑、松田、花田、大関、渡辺、宮地、伊藤和、小田、城山、木村、伊藤、芳賀、白崎

参加学生(学友会)：阿部悠斗、鈴木悠月、鈴木優里、梅津美矢

司会：松田 記録：白崎

月目標：「年間目標の中間評価と修正を行い、課題を明らかにしよう」

テーマ：「良い授業とは」

懇談会内容

<1グループ>（荒木、小田、城山、芳賀、阿部悠斗（2A））

- ・学生が能動的に授業に参加できる演習系の授業がやりやすいと感じる。
- ・教科書の内容をただ読んでいくだけの講義系の授業もあるため、改善を求めたい。
- ・男子学生が少ないことで特に困ることはないが、グループワークの際に意見が言えない時もある。
- ・ランダムで作られたグループによっては人間関係が難しい場合もある。

<2グループ>（渡邊、高桑、宮地、宮地、伊藤、鈴木悠月（2C））

- ・授業の合間に5分程度休憩を入れてくれる授業があり、気分転換ができる。
- ・楽しい雰囲気でも臨めるような授業を組み立ててもらいたい。ただ教科書を読む、ノートを取るだけではなく、事前に目的を話すことも必要ではないかを感じる。
- ・2年次に実習が集中することに疑問を感じている。

<3グループ>（花田、渡辺、木村、白崎、鈴木優里（2A））

- ・わかりやすく眠くならない授業が良い授業であると感じる。
- ・アクティブ・ラーニングを取り入れて意欲的にできる授業が良い。
- ・レポートの課題に関してどのようにポイントを絞ったら良いかわからない課題もある。
- ・グループワークをする際に仲が良いグループで組めた方が意見が出しやすい。

<4グループ>（高橋寛、松田、大関、伊藤和、梅津）

- ・授業中に発言がたくさんできる環境を作ってほしい。
- ・アプリを利用して授業中に質問や意見を言えるなど、教員とコミュニケーションが取れる授業もある。
- ・実習前にいただいた助言を実際体験してみると素直に受け入れられるようになった。

<まとめ>

- ・学生が一方的に話を聞くスタイルだけではなく、教員や学生同士でコミュニケーションを深めながらの学修を積極的に取り入れていくことで、学生自ら考え、実践することにつながるのではないかと感じた。教員として毎回の授業に改善点を見出していくことも大事なことであると思う。

11月 FD・SD 懇談会記録

開催日時：2023年11月30日（木）

場所：会議室

出席者：学長、荒木、高橋、高桑、松田、花田、渡辺、大関、伊藤和、白崎、宮地、小田
城山、木村、原田、吉田

学生：専攻科 伊藤みのり、佐藤春菜、桧森穂乃花、渡邊芽依

司会：花田 記録：小田

月目標：「学習環境を整えるために何ができるか考えよう」

テーマ：「学生が学校に求めること」

懇談会内容

<1グループ>（高桑、大関、渡辺、宮地）、学生（専攻科：渡邊芽依）

○ハード面について

- ・8号室の椅子が古いため、改修をお願いしたい。
- ・廊下の寒さを緩和してほしい。
- ・各クラス専用教室にしてほしい。
- ・温かい飲み物を販売してほしい。

○ソフト面について

- ・PowerPointの授業もいいが、板書をしてほしい。

<2グループ>（渡邊学長、荒木、白崎、小田）、学生（専攻科：桧森穂乃花）

○学生ホールの充実

- ・自動販売機【温かい缶、ペットボトル】を入れてほしい。
- ・冬場はポットの減りが早いので、ポットを増やすか、補充のサイクルを早くしてほしい。
- ・アイスの販売をしてほしい

○行事の充実

- ・クラスで団結して活動する経験が欲しい。

○空調関連

- ・専攻科教室のストーブの灯油が朝、空になっていることが多いので、補充してほしい。

<3グループ>（高橋、松田、城山）、原田、学生（専攻科：伊藤みのり）

○学生ホールの充実

- ・ホットドリンクの充実

○ハード面

- ・全館wi-fiの整備
- ・空調の効きの改善

○行事の充実

- ・宿泊のゼミ旅行の実施

<4グループ>（花田、伊藤和）、木村、吉田、学生（専攻科：佐藤春菜）

○学生ホールの充実

- ・ホットドリンクの充実

○ハード面

- ・全館wi-fiの整備
- ・泡石鹸の設置

<まとめ>

学生目線で学校の改善点挙げてもらい、全体で共有することができて良かった。早急に改善できるところは学校として対応していくが、すぐには難しいものについても継続して改善できるよう努めていきたいと思う。

12 月 定例 F D ・ S D 懇談会記録

日時：2023 年 12 月 21 日 (木)

場所：本学会議室

出席者：荒木、高橋寛、高桑、松田、花田、大関、渡辺、白崎、小田、城山、木村、
宍戸、本間、伊藤和、 欠席：学長

司会：白崎 記録：伊藤和

月目標：ゼミの活動を振り返ろう

テーマ：社会人経験者から見た羽陽短大・これいいの？これいいね。

懇談会内容

<グループ 1> (高橋、大関、花田、城山、学生 2D 五十嵐里美)

- ・高校の 50 分の授業より短大の 90 分の授業の方が短く感じる。
- ・教職員と学生の距離が近くなんでも話せる。
- ・教員と学生の距離が近いが故に、マナー、言葉遣いが気になる。

<グループ 2> (高桑、渡辺、宮地、小田、宍戸、学生 2D 衣袋真琴)

- ・実習で成長する学生いる。
- ・社会人が居ることによって、学生の意識が変わる。
- ・就職等で手厚い対応をしていただける
- ・注意を素直に聞かない
- ・自分の都合のよい方に解釈する学生がいる。

<グループ 3> (松田、渡辺、白崎、学生 2D 菅原京華)

- ・教職員が親身なってくれる。
- ・羽陽短大に入学できて良かった。
- ・衛生面、トイレ清掃が気になる。

<グループ 4> (荒木、木村、本間、伊藤和、学生 2D 高山茜)

- ・良い意味でも、悪い意味でも自由、メリハリがないとダメではないか。
- ・物事を軽く考えている。
- ・先生達との関係も高校より良く、相談できる環境に満足している。
- ・社会人は信頼関係が大事である。

<まとめ>

- ・学生の意見を取り入れ、教職員と学生が一緒になってより良い学校づくりをしていくことが大切である。
- ・教員と学生の距離が近くアットホームであるが節度も大切である。

1月定例FD・SD懇談会記録

日時：2023年1月25日(木)

場所：本学会議室

出席者：学長、荒木、高橋寛、高桑、松田、花田、渡辺、大関、伊藤和
白崎、宮地、小田、城山、木村、浦山、高橋

司会：高桑 記録：城山

月目標：2年間、あるいは1年間の学生の成果を見つけて、褒めよう

テーマ：授業改善アンケート集計結果から授業改善について考える

懇談会内容

<グループ1> (高橋寛、花田、大関、小田)

- ・ゲーグルフォームにすることで、記述式のコメントが増えた印象があり、学生にとってはやりやすい形になっていると考えられる。教員の方では、ポートフォリオにアンケート結果をどこまで書くべきなのかが悩みどころであるが、改善する必要がある内容について記録することが大切だという話になった。また、期末のアンケート内容だけでなく、毎回の授業においても改善点を見つける姿勢も重要である。15コマで伝わることは限られており、伝えきれなかった部分を知ることが授業改善に繋がる。

<グループ2> (荒木、白崎、木村(発表)、高橋)

- ・授業改善のアンケート結果はIRの集計にも活用されており、短大の自己評価や認定評価の際の客観的な資料になっている。
- ・FD・SDの教員個人目標について、アンケートの結果を踏まえて立てることも必要ではないかという意見があった。

<グループ3> (学長、渡辺、宮地、城山)

- ・アンケートによって、授業におけるこちらの意図と学生のニーズが合っているのかどうか確認することができている。点数評価よりも言葉で書いてある方がありがたいという意見も出た。項目が多いため、数値での入力には、正確さ・学生の意見が本当に反映されているのかなど疑問点も多い。ネガティブな意見の方が反映されやすく、目的意識を持って授業に臨んだ学生のポジティブな意見をもっと拾えると良い。

<グループ4> (松田、高桑、伊藤、浦山)

- ・自由記述の部分の方が参考にしやすいという意見があった。授業内容が伝わっているかどうかのひとつの指標として有効だが、伝わっていないところの改善をどうするかが難しい。YouTubeなども活用し、分かりやすい内容を提示しながら授業の工夫をしている。多様な学生が増えているため、様々な伝え方を考えていく必要がある。

<まとめ>

- ・授業改善アンケートの内容を踏まえ、意見に対しどのような改善や工夫をしているかなどを教員間で共有していくことも重要であり、具体的な手法をお互いに取り入れていく機会を作っていきたい。学生には実習などの姿勢としてPDCAサイクルの話をしているが、教員もPDCAを意識して授業改善に取り組んでいけるよう心掛けたい。

合同研修会の報告

1. 日 時 令和6年2月13日(火) 14:00～15:00
2. 会 場 羽陽短期大学 8号室 (ZOOM 参加)
3. 講演内容 「若者を狙った悪質商法」
その契約、ホントに大丈夫？
4. 講 師 山形県消費者センター
相談員： 安 達 美 紀 氏
5. 羽陽学園大学参加者
渡邊学長・高桑学科長・花田学生部長・松田専攻科主任
・・・・・・・・東北文教大会議室
荒木・大関・渡辺・宮地・伊藤和・白崎・小田・城山・木村
浦山・伊藤一・菅野・芳賀・宍戸・高橋・本間 ・・・・・・・・本学8号室

<講演内容の様子>

- ・最初、東北文教大学が機器設定の不具合があり、すこし時間をロスした。
- ・演題が、「若者を狙った悪質商法」その契約ホントに大丈夫？

<内容>

1. 若者の消費者トラブルの傾向
2. 「美」のトラブル
3. 「金」のトラブル
4. 「押し活」に関するトラブル
5. 一人暮らしは狙われる (クーリングオフ)
6. 消費者センターについて

～講演者より～

- ・若者の消費者被害が、増加している。
- ・特に、女性の「脱毛・エステ」関係の被害が目立つ。
- ・若者は、SNSでしか知らない人に関する猜疑心が低い。信じやすい。
「信頼できそう」「おもしろそうな」人に、勧誘されやすい傾向がある。
- ・「強調表現」と「打消し表現」を認識する感覚が必要。
- ・信販会社とサロン内商品の販売等に関わる「同意書」の罠に注意。
- ・クレジットカードの罠

- ・「押し活」の「投げ銭」問題。
- ・「チケット転売」で買ったものでは、入場制限がある。
- ・ホストクラブの勧誘・押し活
- ・一人暮らしは、狙われる。
- ・クーリングオフ8日間（訪問販売）、20日日間（マルチ商法・モニター商法）を覚えておこう。



令和5年度 公開研究会<授業内容>
(令和6年1月18日 15:10~16:00)

羽陽学園短期大学
保育実践研究Ⅰ
2023.12.13 木 2コマ



保育ドキュメンテーション

♪ 本日の流れ ♪

1. 保育ドキュメンテーションについて (15')
2. 保育ドキュメンテーション作成 (50')
3. グループ発表 (25' 1Gの発表3')

保育ドキュメンテーション

振り返りをしよう!

保育ドキュメンテーションとは

保育の様子を写真に撮って
その時の**エピソード**や**保育者の気付き**
を記録したもの (写真付きの記録: 写真
とエピソードで保育の流れが分かる)
→ **保育記録**

保育記録としての保育ドキュメンテーション

◇保育の質を高める◇

「保育ドキュメンテーション」の必要性

統合グループ

ねらい	いろいろな遊びを楽しみ雰囲気の中で行う。
保育者の視点 気付き	・子ども一人一人の個性に合わせた援助が必要 だと思った。
反省 次につながる 手だて	・グループみんなで協力したのでスムーズに運営 できた。上手くできた。

8 レッツおぼけたいし
おぼけたいし腹グループ

ねらい	ゲーム遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
保育者の視点 気付き	・活動にメリハリをつけ、クライマックスの場面を 作ることで活動の余韻を感じられるのだと気付 いた。
反省 次につながる 手だて	・輪がなかなか入らない様子だったので、対象児 が達成感を感じられるように、状況に合わせて ペットボトルの位置を変えるなど臨機応変に対 応していきたい。

8 おぼけたいし
おぼけたいし腹グループ

ねらい	季節感を味わいながら的に当てる楽しさを知る。
保育者の視点 気付き	・倒したと思って何回も挑戦している子が多か った。 ・打ち倒すことができた時に一緒に喜びを分かち あうことができた。
反省 次につながる 手だて	・水鉄砲では、おぼけが落ちやすいように工夫す べきだった。 ・ゴム鉄砲では、風船のバランスが悪く落ちてしま うことが多かったため、紙コップでなく底が深 い紙皿にした方が良かった。

9 ころころ玉入れ

ねらい	集中力を高めるルールある遊びを楽しむ。
保育者の視点 気付き	・集中しながらボールを転がしてゲームをしてい た。 ・最後にプレゼントを渡すことで、ゲームの達成 感を味わうことができた。 ・ゲームに慣れてきたら、ボールの数を増やすこ とでゲームを楽しめる。
反省 次につながる 手だて	・簡単にボールが穴に入ったので、穴の数を減 らす。

	<p>ハロウィンつりゲーム あみちゃんトエンジョイしよう！グループ</p> <p>季節のイベントに親しみをもつ。</p>
ねらい	
保育者の視点 気付き	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間の中でたくさん釣ろうと頑張っている姿が見られた。 自分たちでは想像できなかった遊びの展開があった。
反省 次につながる 手立て	<ul style="list-style-type: none"> 思ったより時間が必要だった。 教材研究にもっと時間をかけるべきだった。

	<p>ボウリング strikeグループ</p> <p>様々なボールで全身を動かして投げることを楽しむ。</p>
ねらい	
保育者の視点 気付き	<ul style="list-style-type: none"> 全部のピンを倒すまで投げる子が多かった。 同じボールを使う子が多かった。
反省 次につながる 手立て	<ul style="list-style-type: none"> 幅が広くてボールがすり抜けることが多かったため、幅を狭くしてもう少し頑丈にする。

	<p>ペーパーボール 矢作興材グループ</p> <p>数字に親しみ、ボールが転がる楽しさを味わう。</p>
ねらい	
保育者の視点 気付き	<ul style="list-style-type: none"> 様々な色や種類の箱や折紙、ボールを用意していたので、ウキウキしながら選んでいる様子が見られた。 自分が作ったものを持って帰る姿が嬉しそうだった。 最初に来た時と完成した後に、実際にゲームをやってみることで、子どもたちは遊び方を理解することができていた。
反省 次につながる 手立て	<ul style="list-style-type: none"> 両面テープやシールを貼るのに手こずってしまった。もっとスムーズに進められるように、事前準備の段階でチーム全体で話し合い、遊びの内容を確認するの 裏があった。

<p>保育記録としての保育ドキュメンテーション</p> <p>◇保育の質を高める◇</p> <p>「保育ドキュメンテーション」の必要性</p>

<p>2020年4月 厚生労働省</p> <p>「保育所における自己評価ガイドライン」</p> <p>一個々の保育者や園が、自分たちの保育を自己評価し、それを改善につなげ、保育の質を向上させていくことを目指す。</p>

<p>保育ドキュメンテーション4つのポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者が自分の保育を振り返る 2. 保育者間の連携 3. 保護者との連携 4. 幼児が活動を振り返る

<p>保育ドキュメンテーション4つのポイント</p> <p>1. 保育者が自分の保育を振り返るために</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿をよく観察し、子どもの興味関心や育ちを記録し、振り返りをする。明日の保育につなげる。
--

<p>保育ドキュメンテーション4つのポイント</p> <p>2. 保育者の連携</p> <p>保育者同士、職員間での対話のツール</p>
--

<p>保育ドキュメンテーション4つのポイント</p> <p>3. 保育者と保護者の連携のために</p> <ul style="list-style-type: none"> 記録したものを保護者の方に「見える化」する。
--

保育ドキュメンテーション4つのポイント

4. 子ども自身が活動を振り返れる

記録したものを子どもたちに「見える化」する。

保育ドキュメンテーション4つのポイント

1. 保育者が自分の保育を振り返る
2. 保育者間の連携
3. 保護者との連携
4. 幼児が活動を振り返る

保育ドキュメンテーションの活用法

- ◇保育日誌
- ◇個人記録 要録
- ◇週案・月案・年間指導計画などの保育計画
- ◇便り・連絡帳・懇談会等、保護者への発信

保育ドキュメンテーションの作成

まずは作ってみよう！！

あまり難しく考えないで…

写真にエピソードを添えればOK

保育ドキュメンテーションの作成のポイント

- ① (写真撮影)と写真の選択 切り張りもOK
- ② 吹き出しにコメント 一言でもOK
- ③ エピソード 例：〇〇が、～した。文章でもOK
- ④ 保育者の視点・大事にしたこと・気付き
- ⑤ 反省点・次につながる手だて

活動のタイトル: KUDOU グループ名: マンゴー

① (期日) 2023. 12/6(木) ② (対象児) 小百合第二保育園 年長5歳児30人

③ ねらい

園庭の遊具が大好きな子どもたち

写真

写真

写真

写真

④ 保育者の視点・気付き

⑤ 反省点・次につながる手だて

令和5年度FD授業検討会 記録

開催日時 令和6年1月18日 15:10～16:00

場所 会議室

出席者 荒木、高橋寛、高桑、松田(司会)、花田、大関、渡辺(記録者)
宮地、伊藤、白崎、小田、城山、木村(授業者)

○公開授業日 令和5年10月25日(水)・12月13日(水)各2時限目

○授業者 木村重子 先生

○授業名 保育実践研究 I

公開授業「保育実践 I」において実施された、保育ドキュメンテーション作りに関する授業を教員が参観した。どちらかの授業を参観した教員が、授業内容の感想や授業の構築に関する思いを話し合った。

検討会は、最初に授業者である木村先生より、授業に関するお話しをいただいた。次に参加者が4つのグループに分かれて、小グループ交流をおこなった。最後に全体でどんな話し合いがされたかを全体交流した。その後、木村先生の願いや思いを伺い話し合いを終了した。

以下に各グループで話された内容を記述する。

1. 授業について・・・木村先生

- ・ねらいとしてドキュメンテーションの重要性と振り返ることの重要性がある。自分の保育を振り返る、保育者間の連携、保護者との連携、幼児が活動を振り返ることの重要性を理解するなどの価値がある。
- ・今回の授業で、ドキュメンテーション作成に時間がかかり、発表・振り返りが次の時間になった。
- ・導入時の学生の私語が気になった。アドバイスがあれば。
- ・パワーポイント字が多い。写真を取り入れれば良かった。
- ・グループ人数：全員が参加できるようになっていたかな。

2. 各小グループの話し合いから

<松田T・小田T・花田Tグループ>

- ・ドキュメントとは何だろうというところから考えていった。今回、自分で撮った写真ではないので、深い振り返りまで行かないということもあったのでは。
- ・私語のある学生への対応として、学生が集中してから＝静かになってから説明する方が良いと考える。
- ・パワーポイントの効果的使い方の研修会などがあるとよいと考える。

<高桑T・白崎T・渡辺Tグループ>

- ・現場の先生(大室T)は、ドキュメンテーションで記録・振り返りをしてる人もいる。現場に入ったら必要な能力になってきているはず。
- ・一人一人が、ドキュメンテーションがつくれて、例えばこれを卒論に応用する。発表会でもこれを活用した発表になるのが理想である。
- ・私語の防止として、うるさくなったら教師が沈黙して話さないのがいい。
- ・パワーポイントは、白ベースから黒ベース等にしたり、文字の形態を工夫することで見やすくなる。パワーポイントの資料を持ち寄って、FD/SDで検討会があるのいいのでは。

<大関T・木村T・伊藤T>

- ・私語については、授業当初に約束事を決める等、集中力を高める工夫が必要。
- ・グループディスカッションをつくるのに、グルーピングの難しさがある。役割分担を目的に合わせてしっかり行うことが大切。
- ・子どもが生き生きとするには、保育者の会話力が必要。その力が就職してから生きる。

<高橋寛T・荒木T・宮内T・城山T>

- ・今回の授業では、作業だけで終わったのが残念だった。振り返りの観点をしっかり与えて、話させると理解が深まっていくと考える。
- ・学生にビジュアルリテラシーをつけることは、これからの保育者として大切になってくると思う。
- ・同様に、教える側の力も磨いていく必要がある。

木村先生の感想（まとめ）

- ①話し方の技術：以前は、子どもの合わせた話し方を保育では行ってきた。その気持ちを学生が相手だと薄れてきたかもしれない。話を聞きたくなる工夫をしなければいけない。
- ②パワーポイントの技術交流をしてみたいと思った。
- ③今回は、インフルエンザ等で、学生の授業に対するテンションに、浮き沈みがありいじしていくことが難しいものがあった。という発言があった。

どのグループもパワーポイントに関する研修の必要性、授業中の私語に対するコントロール方法について話されていて。参加者の思いは共通していると感じた。

授業の実施から時間がたった検討会ではあったが、参加者が普段困っていることや改善したいことについて、本公開授業を通して洗い出すことができた。

木村先生、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



保育実践研究 I

・ 2 年次選択授業 40 人 (7 グループ)

<授業内容>

◇10 月 25 日(水)の授業では、前回 10/18(水) 放課後等デイサービスつぼみ利用児 19 名の遊び活動の保育ドキュメンテーション(保育の様子を写真に撮ったものを用い、その時のエピソードや保育者の気づきを記録したもの)を作成しながら振り返りを行った。

◇12 月 13 日(水)の授業では、前回 12/6(水) 小百合第二保育園年長児 30 名の遊び活動の保育ドキュメンテーション(保育の様子を写真に撮ったものを用い、その時のエピソードや保育者の気づきを記録したもの)を作成しながら振り返りを行った。

<授業の流れ(10 月 25 日(水)・12 月 13 日(水))>

1. 保育ドキュメンテーションの説明 (15')10:40~10:55 →(20') 10:40~11:00
2. 保育ドキュメンテーションの作成 (50')10:55~11:45 →(70') 11:00~12:10
 - ・ 7つのグループに分かれての活動(総括 G・G1~G6)
- (3. グループ発表 11:45~12:10 (25' 1G の発表は 3')を予定していたが、
進捗状況により次回の授業(11/22・12/20)で行った。)

<授業のねらい>

◇保育ドキュメンテーションを製作しながら振り返りをする中で、保育者の視点からの気づきや反省(課題)等を見出し、次につながる手だてや援助(援助の方向)を考える。

<授業の評価>

- ・ 各グループの活動内容は、幼児や児童の発達段階に合っていたか。適当であったか。
- ・ 各グループ保育ドキュメンテーションを製作しながら、保育者の視点からの気づきがあったか。
- ・ 各グループ保育ドキュメンテーションを製作しながら、反省(課題)等を見出し、次につながる手だてや援助(援助の方向)を考えることができたか。
- ・ 各グループにおいて、一人一人の学生は役割をもち責任をもって活動することができたか。
また、自分の考えや意見等を他の学生に伝えたり、他の学生の考え等を聞いたりしながら活動を進めることができたか。

保育実践研究 I

10月25日(水) 保育ドキュメンテーション(10/18(水)放課後等デイサービスつぼみ活動)の作成

各グループ発表のコメント 11月22日(水)

☆	総括グループ
テーマ ねらい	ハロウィン いろいろな遊びを楽しみ雰囲気の中で行う。
保育者の視点 気づき	・ <u>子ども一人一人の個性に合わせた援助が必要だ</u> と思った。
反省・次につ ながる手だて	・ <u>グループみんなで協力した</u> のでスムーズに運営できた。上手くできた。

1	おぼけたいじ隊グループ
テーマ ねらい	レッツおぼけたいじ ゲーム遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
保育者の視点 気づき	・ <u>活動にメリハリをつけ、クライマックスの場面を作ることで、活動の余韻を感じられるのだと気付いた。</u>
反省・次につ ながる手だて	・ <u>輪がなかなか入らない様子だったので、対象児が達成感を感じられるように、状況に合わせてペットボトルの位置を変えるなど、臨機応変に対応していきたい。</u>

2	おぼけハンターグループ
テーマ ねらい	おぼけたいじ 季節感を味わいながら的に当てる楽しさを知る。
保育者の視点 気づき	・ 倒したと思って何回も挑戦している子が多かった。 ・ <u>打ち倒すことができた時に一緒に喜びを分かちあうことができた。</u>
反省・次につ ながる手だて	・ 水鉄砲では、おぼけが落ちやすいように工夫するべきだった。 ・ <u>ゴム鉄砲では、風船のバランスが悪く落ちてしまうことが多かったので、紙コップでなく底が深い紙皿にした方がよかった。</u>

3	くれあちゃんと遊ぼうグループ
テーマ ねらい	ころころ玉入れ 集中力を高めるルールある遊びを楽しむ。
保育者の視点 気づき	・ 集中しながらボールを転がしてゲームをしていた。 ・ 最後にプレゼントを渡すことで、ゲームの達成感を味わうことができた。 ・ <u>ゲームに慣れてきたら、ボールの数を増やすことでゲームを楽しめる。</u>
反省・次につ ながる手だて	・ 簡単にボールが穴に入ったので、 <u>穴の数を減らす。</u>

4	あみちゃんとエンジョイしよう！グループ
テーマ ねらい	ハロウィンつりゲーム 季節のイベントに親しみをもつ。
保育者の視点 気付き	・限られた時間の中でたくさん釣ろうと頑張っている姿が見られた。 ・自分たちでは想像できなかった <u>遊びの展開があった。</u>
反省・次につ ながる手だて	・思ったより時間が必要だった。 ・教材研究にもっと時間をかけるべきだった。

5	strike グループ
テーマ ねらい	ボウリング 様々なボールで全身を動かして投げることを楽しむ。
保育者の視点 気付き	・全部のピンを倒すまで投げる子が多かった。 ・同じボールを使う子が多かった。
反省・次につ ながる手だて	・幅が広くてボールがすり抜けることが多かったので、 <u>幅を狭くしてもう少し頑丈にする。</u>

6	矢作興材グループ
テーマ ねらい	ペーパーロール 数字に親しみ、ボールが転がる楽しさを味わう。
保育者の視点 気付き	・様々な色や種類の箱や折紙、ボールを用意していたので、ウキウキしながら選んでいる様子が見られた。 ・自分が作ったものを持って帰る姿が嬉しそうだった。 ・最初に来た時と完成した後に、 <u>実際にゲームをやってみせることで、子どもたちは遊び方を理解することができていた。</u>
反省・次につ ながる手だて	・両面テープやシールを貼るのに手こずってしまった。 ・もっとスムーズに進められるように、 <u>事前準備の段階で、チーム全体で話し合い遊びの内容を確認する必要があった。</u> ・小学校低学年の子がもっと貼りたいと言っていたので、学年で貼る数字を決めるべきではないと思った。 ・準備を早く終わらせ、本番の練習をじっくり取り組めるように、 <u>チーム力を高める必要があると感じた。</u>

保育実践研究 I

12月13日(水) 保育ドキュメンテーション(12/6(水)小百合第二保育園活動)の作成

各グループ発表のコメント 12月20日(水)

☆	総括・矢作興材グループ
テーマ ねらい	クリスマス 季節を感じながら、いろいろな遊びを楽しみながら行う。
保育者の視点 気付き	・子どもたちは静かに話を聞いてくれていた。 ・順番などを決めていなかったために一つに集中してしまったが、 <u>今子ども自身</u> がやりたい遊びに取り組めることにもつながった。
反省・次につ ながる手だて	・他のグループとの連携、声掛けが足りてなくて思い違いが生まれた。 ・もらったプレゼントを置くスペースを設ければよかった。 ・荷物(水筒等)を置く場所まで考えなかった。 → <u>もっとシミュレーションをすべきだった。</u>

1	たまごっちグループ
テーマ ねらい	プレゼントさがし 体と頭を使って活動を行い、季節の行事と合わせた活動を行う。
保育者の視点 気付き	・体を十分に動かすことができていなかった。 ・ <u>対象児には簡単すぎる活動内容であった。</u>
反省・次につ ながる手だて	・障害物を置いて、 <u>難易度を上げる等の工夫が必要であった。</u> ・保育者が声掛けを行い、 <u>もっと楽しい雰囲気づくりを行うべきだった。</u>

2	チーム福笑いグループ
テーマ ねらい	ふくわらい オリジナルクリスマスケーキを作る。
保育者の視点 気付き	・ズルする子どもがいなかった。 ・協力してあげる子どもがいた。→ <u>5歳児に合っていた◎</u>
反省・次につ ながる手だて	・ <u>作業台が狭かった。</u> ・思ったより時間がかり、 <u>待ち時間が長かった。</u>

3	楽しもうね～!!グループ
テーマ ねらい	クリスマスカーリング ルールのある遊びを楽しむ。集中力を高める。
保育者の視点 気付き	・子どもたちは遊びに集中して意欲的に取り組んでいた。 ・ルールを理解していたため、見守る、応援する等の声掛けをした。
反省・次につ ながる手だて	・テーブルの高さが合っていなかった。→ <u>踏み台等をし、高く調整する。</u> ・待っている子どもの対応を考える。→ <u>応援等で待ち時間を楽しくする。</u>

4	Ring☆グループ
テーマ ねらい	わなげ 投げる時の集中力や成功した時の達成感を味わう。
保育者の視点 気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・奥のツリーに入れるのが難しかったため、<u>手前に置く等工夫が必要だった。</u> ・あまり入らない子どもには<u>白い線から投げる等の声掛けを行うことで入り達成感を味わうことができた。</u>
反省・次につ ながる手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼントを振る子どもがいたため、<u>中にビーズを入れる等ワクワクできる仕掛けが必要だった。</u> ・ツリーがずれてしまうことが多かったため<u>固定する等の工夫が必要だった。</u>

5	グクリスマスツリーグループ
テーマ ねらい	クリスマス釣りー 季節感を味わいながら、クリスマスツリーを完成させる喜びを知る。
保育者の視点 気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で飾りを釣って、直接クリスマスツリーに貼って楽しむ姿が見られた。 ・<u>クリスマスツリーの高さがちょうどよく子どもが好きな場所に貼れた。</u> ・<u>いろいろな種類の飾りがあり、子どもたちも楽しそうに選んで釣っていた。</u>
反省・次につ ながる手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>釣り竿と飾りがもう少し多くてもよかった。</u> ・個数を指定しないで<u>自由に釣れる方がよかった。</u> ・お持ち帰りできるようなプレゼントがあればもっと喜んでもらえたかも？

6	にこにこ組グループ
テーマ ねらい	クリスマスツリーをつくろう！！かみこっぷたわー 自分でバランスを考え、紙コップを積み重ねることを楽しむ。
保育者の視点 気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・紙コップを積み重ねていくと、<u>後ろにある紙コップが取りづらくなるため、手前に置くような援助が必要だった。</u> ・最初は椅子の上で行っていたが、活動の範囲が狭く、子どもがやりづらそうにしていたため<u>床で活動するなど臨機応変に対応できた。</u>
反省・次につ ながる手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもによって紙コップを並べる間隔が違っていたため、紙コップの幅に合わせてシールを貼ったり、実際に学生が積み上げたりする必要があった。

第25回 基盤教育ワークショップ 要項

趣 旨： 大学におけるFDが義務化された中、大学教育の質の向上が以前にも増して求められております。本ワークショップは、大学教育の発展を目的とし相互研鑽の理念のもと、本学の教職員及び「FDネットワーク“つばさ”」や「大学コンソーシアムやまがた」を始めとした学外からの参加者と一緒に議論を深めていきます。

日 時： 令和5年9月11日（月） 10：00～15：30

場 所： 山形大学小白川キャンパス基盤教育2号館（山形市小白川町1-4-12）

主 催： 山形大学

時間	プログラム
09:30	ZOOM接続開始
10:00	開会 司会・挨拶 山形大学理学部 教授 栗山恭直
10:15 (90分)	<p>【第1部】 基調講演（*対面及びZOOMによるハイブリッド形式開催） <u>（山形大学基盤教育2号館221教室）</u></p> <p>講 師： 静岡理工科大学 情報学部 准教授 谷口 ジョイ 氏</p> <p>演 題： 生成系AIと大学教育～外国語教育やレポート課題に及ぼす影響～</p> <p>〈概要説明〉 2022年末に登場した米オープンAIのChatGPTなど、自然言語を扱う人工知能の進化は目覚ましく、こうした大規模言語モデル（LLM）の普及は、社会に大きな影響を与えている。大学教育においても、これまで学生に課していた知的作業や創造的作業を人工知能が代替できるようになったことで、その役割やあり方に変化が生じている。また今後、生成系AIが大学教育を変え、それに対応するために新たなAI技術が生まれる、といった連鎖が起こることも予想されている。 本講演では、生成系AIによって起こりうる問題（例：著作権・プライバシーの侵害、ハルシネーション）を挙げ、解決策について検討する。特に、外国語学習やレポート作成において、大学生がどのように人工知能を利用しているのか、複数の事例を紹介した上で、具体的な問題に踏み込み、施策として何が足りないかについて考える。</p> <p>〈経歴〉 学術博士（東京大学大学院 総合文化研究科 言語情報科学専攻） 米カリフォルニア州出身。専門は応用言語学。梨花女子大学校（韓国）言語教育院講師、国立マラヤ大学講師（マレーシア）、静岡英和学院大学人間社会学部准教授を経て、現職。2021年より東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員、2023年より国立国語研究所「消滅危機言語の保存研究」共同研究プロジェクト共同研究員を兼任。</p> <p>〈研究活動〉 応用言語学・社会言語学に関連するテーマについて、調査研究を行っている。現在は、言語学とデータサイエンス手法の融合により、方言衰退を可視化することを試みている。また、消滅危機方言のアーカイブ化に取り組んでいる。主な著者にBiliteracy in Young Japanese Siblings（ひつじ書房）などがある。</p>
11:45	質疑応答
12:00	休 憩

13:00	ZOOM接続開始
13:30 ～ 14:30 (60分)	<p>【第2部】ラウンドテーブル (※対面開催) (対面およびZOOMによるハイブリッド開催に変更)</p> <p>★第1分科会：香川大発DRI教育のススメ (山形大学基盤教育2号館211教室) コーディネーター：山形大学 学士課程基盤教育院 准教授 安田 淳一郎 パネリスト：香川大学 大学教育基盤センター長 高橋 尚志</p> <p><概要説明> 香川大学は、第4期中期目標期間において、持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進に取り組むことをビジョンとして掲げています。地域活力を維持・向上させるためには、イノベーションが必要とされます。そうした新たな価値を創造できる人材を育てるため、DRI教育を実施しています。本学が提唱し進める「DRI教育」とは、イノベーションを創出する「デザイン思考」、レジリエンスやセキュリティ等に資する「リスクマネジメント」、デジタル社会を生きるための「インフォマティクス」であり、これらを融合しDRI教育とすることにより現代社会に求められる有為な人材を養成することを目指し、教育活動の基本としています。今期開始時よりDRI教育の全学への推進拡充を進めるとともに、学生自身が自ら学ぶことのできる学習コンテンツを作成提供しました。同時に学修効果の可視化のために本学独自の検定試験を開発し導入実施しました。</p> <p>★第2分科会：「やまがたAI部」の取組 (山形大学基盤教育2号館212教室) コーディネーター：「やまがたAI部」運営コンソーシアム事務局 山形県立産業技術短期大学校 校長 佐藤 俊一 パネリスト：「やまがたAI部」運営コンソーシアム事務局 山形県立産業技術短期大学校 校長 佐藤 俊一 株式会社IBUKI 伊藤 宗寿 ：山形県立山形東高等学校の部員生徒 ：山形県立酒田光陵高等学校の部員生徒</p> <p><概要説明> AI(人工知能)は私たちの身近な生活や産業界に浸透しつつあり、生活や産業構造さえ変えようとしています。学校教育に目を転ずると、正課で扱う機会はほとんどなく、指導者はじめ指導体制も整わないのが現状です。そのような中「やまがたAI部」は、産学官が連携して高校生が部活動の中でAIを学習できる機会を提供し、山形の未来を担うデジタル人材の育成を図ろうと、2020年8月にスタートした我が国初の取組です。活動4年目となる今年は、県内外38高校およそ160人の部員が参加しております。 本分科会では、最初に「やまがたAI部」運営コンソーシアムから取組概要とカリキュラム内容についての報告を行い、その後部員である高校生たちに活動内容と感想や将来展望などについて語ってもらおうと考えております。</p>

	<p>★第3分科会：国、大学、高校のアントレプレナーシップ教育の現状と展望 (山形大学基盤教育2号館213教室)</p> <p>コーディネーター：山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター センター長・教授 小野寺 忠司</p> <p>パネリスト：文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 産業連携推進室 専門官 鈴木 慎司</p> <p>：東北大学大学院工学研究科 インターナショナルオフィス 副室長・教授 森谷 祐一</p> <p>：学校法人新庄学園 新庄東高等学校 校長 田宮 邦彦</p> <p><概要説明> 国立開発研究法人科学技術振興機構（JST）の大学発新産業創出プログラム（START）では、「大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援」として、東北大学が主幹機関となり山形大学が共同機関として参加する「みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム」を含む全国7つのプラットフォームが採択され、それぞれ独自のアントレプレナーシップ教育が盛んに行われています。また、当プラットフォームへの令和4年度文部科学省第2次補正予算による増額支援には「起業家層の拡大に向けたアントレプレナーシップ教育の高校生等への拡大」の項目が含まれており、アントレプレナーシップ教育の裾野が初等・中等教育へも拡大していくものと思われま</p> <p>今後、ますますニーズが高まっていくであろうアントレプレナーシップ教育の現状と展望について、国、大学、高校のそれぞれの立場から述べ合い、議論します。</p>
14:30 ～ 15:30 (60分)	情報交換・ディスカッション (グループワークで情報交換を行います。分科会ごとに解散となります。)

参加希望の方は、令和5年9月5-7日（火木）までに参加申し込みフォーム（Microsoft Forms）により申し込みください。

参加申し込みフォーム：<https://forms.office.com/r/Zyugrr6Dcb>

*既に申し込みいただいた方についても、申請内容を変更することができます。

【その他】

- ・会場までの旅費・宿泊費は各自で予約・負担をお願いいたします。
- ・構内の駐車場に限りがございます。大学周辺の有料駐車場をご利用いただくようご協力をお願いいたします。
- ・ZOOMによる参加者については、9月7-8日（**木金**）頃にURL及び資料等をお送りする予定です。
- ・当日の昼食については、各自で済ませていただきますようお願いいたします（構内の食堂や大学周辺の食堂・コンビニ等がご利用いただけます）。
- ・各自コロナウィルス感染症対策のご協力をよろしくをお願いいたします。

【山形大学小白川キャンパスマップ】



【担当】

国立大学法人山形大学エンロールメント・マネジメント部

教務課教育企画担当 須藤・齋藤

E-Mail yu-syugaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

TEL 023-628-4720（直通）

第25回 基盤教育ワークショップ参加報告

○趣 旨： 大学におけるFDが義務化された中、大学教育の質の向上が以前にも増して求められています。本ワークショップは、大学教育の発展を目的とし相互研鑽の理念のもと、本学の教職員及び「FDネットワーク“つばさ”」や「大学コンソーシアムやまがた」を始めとした学外からの参加者と一緒に議論を深めていきます。

○日 時： 令和5年9月11日（月） 10:00～15:30

○場 所： 山形大学小白川キャンパス基盤教育2号館（山形市小白川町1-4-12）
ZOOM 接続による参加

○主 催： 山形大学

○本学参加者： 渡辺聡（都合により、I部のみZOOM出席）

○時程とプログラム（第I部）：

時間	プログラム
09:30	ZOOM 接続開始
10:00	開会 司会・挨拶 山形大学理学部 教授 栗山恭直
10:15 (90分)	【第1部】 基調講演（＊対面及びZOOMによるハイブリッド形式開催） (山形大学基盤教育2号館221教室) 講 師： 静岡理工科大学 情報学部 准教授 谷口 ジョイ 氏 演 題： 生成系 AI と大学教育～ 外国語教育やレポート課題に及ぼす影響～ <経歴> 学術博士（東京大学大学院 総合文化研究科 言語情報科学専攻） 米カリフォルニア州出身。専門は応用言語学。 梨花女子大学校（韓国）言語教育院講師、国立マラヤ大学講師（マレーシア）、 静岡英和学院大学人間社会学部准教授を経て、現職。2021年より東京外国語大学 ア ジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員、2023年より国立国語研究所「消滅危機言 語の保存研究」共同研究プロジェクト共同研究員を兼任。 <研究活動> 応用言語学・社会言語学に関連するテーマについて、調査研究を行っている。現在は、

	<p>言語学とデータサイエンス手法の融合により、方言衰退を可視化することを試みている。また、消滅危機方言のアーカイブ化に取り組んでいる。主な著者に Biliteracy in Young Japanese Siblings (ひつじ書房) などがある。</p> <p><概要説明></p> <p>2022 年末に登場した米オープン AI の ChatGPT など、自然言語を扱う人工知能の進化は目覚ましく、こうした大規模言語モデル (LLM) の普及は、社会に大きな影響を与えている。大学教育においても、これまで学生に課していた知的作業や創造的作業を人工知能が代替できるようになったことで、その役割やあり方に変化が生じている。また今後、生成系 AI が大学教育を変え、それに対応するために新たな AI 技術が生まれる、といった連鎖が起こることも予想されている。</p> <p>本講演では、生成系 AI によって起こりうる問題 (例: 著作権・プライバシーの侵害、ハルシネーション) を挙げ、解決策について検討する。特に、外国語学習やレポート作成において、大学生がどのように人工知能を利用しているのか、複数の事例を紹介した上で、具体的な問題に踏み込み、施策として何が足りないかについて考える。</p>
11:45	質疑応答
12:00	休憩 (午後の部へ)

○基調講演の概要：

～はじめに～

- ・生成 AI とは：自然言語に対応し、人間が出す質問に自然言語で答える文章を生成する AI。
- ・生成 AI の発達により、外国語教育やレポートに及ぼす影響を考えざる終えない状況となる。

～生成系 AI の特徴～

- ・WEB 上で無料アクセスできる (3.5Version まで)
- ・大規模言語モデルである。
- ・一連の語の表現を入力したあと、後続する可能性の高い語を予測して出力する。

～問題点～

- ・必ずしも内容が正しいとは、限らない (もっともらしく、嘘をつく)。

ハルシネーション (幻覚) の問題

<事実に基づかない虚偽の情報を生成してしまう>

- ・学習にあたって、大量のデータがいる。
- ・学習範囲外の状況に弱い。
- ・高次処理に弱い

～信頼される AI になる為に～

- ①ブラックボックス化の問題を解決する
- ②バイアスの問題を解決 (訓練されてデータの傾向を反映してしまう)
- ③脆弱性の問題 (悪意をもった追加学習で、変化する)
- ④品質の保障問題 (正確性をもった動作保証ができない)
- ⑤フェイクの問題 (簡単に偽物を作ることができる) これらをクリアしなければいけない。

～学生による生成 AI の利用～

- ・2023年6月8日（朝日新聞）「学生の3割が、チャット GPT を使用したことがある。」
- ・指示プロンプトを工夫すると、学生の要求に合わせた文章を作成してくれる。

ex) レポート課題

「少数言語の衰退と消滅について、自身の考えを（英語・800字）述べよ。」という課題があったとして、

プロンプト：これを書いて下さい

高校生が書くようなレベルにして下さい

英語が、第二言語学習者の英語レベルにして下さい。

⇒生成 AI は、合わせて書いてきます。

～Q どの様に対処していけば良いのか～

- (1) 実際に教師の課題に対して、自分が使用してみる。
どんな回答を出すかを確認する
- (2) 授業目的に合わせて、AI 使用上のルールを学生に明示
- (3) 個人情報に留意する
プロンプトに入力した情報は、データベース化される
- (4) 安易な利用はしない（3.5 までは無料だが、それ以降は課金：レポートの質が変わってくる）
- (5) 学生が使用することを前提として評価項目を設定する。

ex) 使用可能な文献をあらかじめ指定してその中から書かせる

ディスカッションに基づいたレポートを課す 等の工夫

ex) Peer Feedback 法

ペア、グループになる⇒クラスメートの書いた文章を音読・対話しながら読み進める⇒理解した点・気づいた点・疑問点などをクラスで共有⇒経過状況・学んだ点の記録（提出）

※教室でなければできないことを挿入する。

ex) テストの聞き方例

誤りを修正して（AI、大得意）、誤りの原因を説明して下さい（AI は、不得意）。

「住所教えてください」 Please teach me your address. ×

Please tell me your address. ○

のような質問を挿入していく。

令和5年度 卒業時満足度調査の結果

問	4.非常に満足		3.やや満足		2.やや不満		1.全く不満		(無回答)		平均
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
① 短大の施設、設備、備品の充実度について	20	22.7%	50	56.8%	17	19.3%	2	2.3%	0	0%	2.99
② 短大の施設、設備、備品の使いやすさについて	22	25.0%	51	58.0%	14	15.9%	2	2%	0	0%	3.04
③ 短大の授業、教育課程全般について	35	39.8%	51	58.0%	3	3.4%	0	0%	0	0%	3.36
④ 専任教員の授業について	46	52.3%	39	44.3%	4	5%	0	0%	0	0%	3.47
⑤ 非常勤教員の授業について	25	28.4%	53	60.2%	10	11.4%	1	1%	0	0%	3.15
⑥ セミ活動とゼミ指導教員の指導について	50	56.8%	36	40.9%	3	3.4%	0	0.0%	0	0%	3.53
⑦ クラス担任の指導について	63	71.6%	24	27.3%	2	2.3%	0	0%	0	0%	3.69
⑧ 事務室職員の対応全般について	57	64.8%	28	31.8%	3	3%	1	1%	0	0%	3.58
⑨ 学校行事について	25	28.4%	44	50.0%	18	20.5%	2	2.3%	0	0%	3.03
⑩ 授業以外の課外活動について	29	33.0%	53	60.2%	7	8.0%	0	0.0%	0	0%	3.25
⑪ 自分の専門職としての技能の向上について	41	46.6%	44	50.0%	3	3.4%	0	0%	1	1%	3.43
⑫ 2年間(もしくは3年間)の自分の過ごし方や成長について	46	52.3%	41	46.6%	2	2.3%	0	0%	0	0%	3.49
⑬ 友人たちとの出会いについて	63	71.6%	21	23.9%	1	1.1%	1	1%	3	3%	3.70
⑭ 教員との授業以外での関わりについて	59	67.0%	24	27.3%	2	2%	0	0%	4	5%	3.67
⑮ 事務職員との関わりについて	48	54.5%	35	39.8%	2	2.3%	1	1%	3	3%	3.51
⑯ 就職活動への支援について	48	54.5%	34	38.6%	3	3%	0	0%	4	4.5%	3.53
⑰ トラブルを抱えた際の教職員の緊急時の対応について	48	54.5%	35	39.8%	2	2.3%	0	0%	4	5%	3.54
⑱ 学生生活全般について	47	53.4%	39	44.3%	0	0.0%	0	0%	3	3%	3.55
⑲ 日常を過ごす環境としての短大について	48	54.5%	38	43.2%	0	0.0%	0	0%	3	3%	3.69
⑳ 羽濑学園短期大学に入学したこと自体を今、どう感じているか	60	68.2%	25	28.4%	1	1.1%	0	0%	3	3%	3.69

※1 平均は「非常に満足」を「4」、「やや満足」を「3」、「やや不満」を「2」、「全く不満」を「1」として算出。なお、20項目の平均値は3.40。

※2 卒業生・修了生 88名を対象に、2024年3月14日実施。

令和5年度 卒業時満足度調査

問①		問②		問③		問④		問⑤		問⑥		問⑦		問⑧		問⑨	
答	人数	%	答	人数	%	答	人数	%	答	人数	%	答	人数	%	答	人数	%
短大の施設、設備、備品の充実度について		非常に満足	20	22.7% (33.0%)	非常に満足	22	25.0% (30.9%)	非常に満足	22	25.0% (30.9%)	非常に満足	35	39.8% (51.1%)	() は昨年度の値			
		やや満足	50	56.8% (52.1%)	やや満足	51	58.0% (58.5%)	やや満足	51	58.0% (49.6%)	やや満足	51	58.0% (49.6%)				
		やや不満足	17	19.3% (13.8%)	やや不満足	14	15.9% (8.5%)	やや不満足	14	15.9% (8.5%)	やや不満足	3	3.4% (3.2%)				
		全く不満足	2	2.3% (1.1%)	全く不満足	2	2.3% (1.0%)	全く不満足	2	2.3% (1.0%)	全く不満足	0	0.0% (0.0%)				
平均	2.99 (3.17)	0.0% (0.0%)	平均	3.04 (3.20)	0.0% (1.0%)	平均	3.36 (3.49)	0.0% (2.0%)	平均	3.36 (3.49)	0.0% (2.0%)	平均	3.36 (3.49)				
問④		問⑤		問⑥		問⑦		問⑧		問⑨		問⑩		問⑪		問⑫	
専任教員の授業について		非常勤教員の授業について		ゼミ活動とゼミ指導教員の指導について		クラス担任の指導について		事務室職員の応対全般について		学校行事について		学校行事について		学校行事について		学校行事について	
非常に満足	46	52.3% (59.6%)	非常に満足	25	28.4% (47.9%)	非常に満足	25	28.4% (47.9%)	非常に満足	57	64.8% (61.7%)	非常に満足	25	28.4% (40.4%)	非常に満足	25	28.4% (40.4%)
やや満足	39	44.3% (39.4%)	やや満足	58	60.2% (45.7%)	やや満足	58	60.2% (45.7%)	やや満足	28	31.8% (36.2%)	やや満足	44	50.0% (56.4%)	やや満足	44	50.0% (56.4%)
やや不満足	4	5% (1.0%)	やや不満足	10	11.4% (6.4%)	やや不満足	10	11.4% (6.4%)	やや不満足	3	3.4% (2.0%)	やや不満足	18	20.5% (3.2%)	やや不満足	18	20.5% (3.2%)
全く不満足	0	0.0% (0.0%)	全く不満足	0	0.0% (0.0%)	全く不満足	1	1.1% (0.0%)	全く不満足	1	1.1% (0.0%)	全く不満足	2	2.3% (0.0%)	全く不満足	2	2.3% (0.0%)
平均	3.47 (3.59)	0.0% (0.0%)	平均	3.15 (3.41)	0.0% (0.0%)	平均	3.53 (3.56)	0.0% (3.0%)	平均	3.58 (3.60)	0.0% (0.0%)	平均	3.03 (3.37)	0.0% (0.0%)	平均	3.03 (3.37)	0.0% (0.0%)

問⑬	答	人数	%	問⑭	答	人数	%	問⑮	答	人数	%
友人たちとの出会いについて	非常に満足	69	71.6% (75.5%)	教員との授業以外での関わりについて	非常に満足	59	67.0% (55.3%)	事務職員との関わりについて	非常に満足	48	54.5% (44.7%)
	やや満足	21	23.9% (17.0%)		やや満足	24	27.3% (39.4%)		やや満足	85	39.8% (44.7%)
	やや不満	1	1.1% (1.1%)		やや不満	2	2.3% (0.0%)		やや不満	2	2.3% (5.3%)
	全(不満)	1	1.1% (1.1%)		全(不満)	0	0.0% (0.0%)		全(不満)	1	1.1% (0.0%)
平均			3.4% (5.3%)	平均			3.67 (3.58)	平均			3.51 (3.42)
3.70 (3.76)	(無回答)	8	(5.3%)	3.67 (3.58)	(無回答)	4	(5.0%)	3.51 (3.42)	(無回答)	8	(5.0%)
問⑯	答	人数	%	問⑰	答	人数	%	問⑱	答	人数	%
就職活動への支援について	非常に満足	48	54.5% (61.7%)	トラブルを抱えた際の教職員の緊急時の対応について	非常に満足	48	54.5% (61.7%)	自身の学生生活全般について	非常に満足	47	53.4% (56.4%)
	やや満足	34	38.6% (29.8%)		やや満足	35	39.8% (30.9%)		やや満足	89	44.3% (36.2%)
	やや不満	8	3% (3.0%)		やや不満	2	2.3% (1.1%)		やや不満	0	0.0% (2.1%)
	全(不満)	0	0.0% (0.0%)		全(不満)	0	0.0% (0.0%)		全(不満)	0	0.0% (0.0%)
平均			4.5% (5.3%)	平均			3.54 (3.65)	平均			3.55 (3.57)
3.53 (3.62)	(無回答)	4	(5.3%)	3.54 (3.65)	(無回答)	4	(6.0%)	3.55 (3.57)	(無回答)	8	(5.0%)
問⑲	答	人数	%	問⑳	答	人数	%	問㉑	答	人数	%
日常を過ごす環境としての短大について	非常に満足	48	54.5% (55.3%)	羽陽学園短期大学に入学したことで自体を今、どう感じているか	非常に満足	60	68.2% (68.1%)	自身の学生生活を点数化すると100点満点で何点か?	90~100	86	46.2% (59.8%)
	やや満足	38	43.2% (36.2%)		やや満足	25	28.4% (25.5%)		80~89	24	30.8% (20.7%)
	やや不満	0	0.0% (3.2%)		やや不満	1	1.1% (0.0%)	70~79	11	14.1% (9.8%)	
	全(不満)	0	0.0% (0.0%)		全(不満)	0	0.0% (1.0%)	60~69	2	2.6% (7.3%)	
平均			3.4% (5.3%)	平均			3.69 (3.70)	平均			84.2 (88.3)
3.56 (3.55)	(無回答)	8	(5.3%)	3.69 (3.70)	(無回答)	8	(5.0%)	84.2 (88.3)	N=77, SD=16.27	5	6.4% (2.4%)

※平均は「非常に満足」を「4」、「やや満足」を「3」、「やや不満」を「2」、「全(不満)」を「1」として算出。

調査は2024年3月14日、各クラスの担任教員により実施された。(協力者：88名)

作成 学内FD担当(2024/03/14)

令和5年度 授業改善アンケート 1年 前期

科目名	回答率	履修者数	回答数	動機1	動機2	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教え方平均	コミュニケーション平均	勉強時間平均(%)				
												30分以上	2~30時間	1~2時間	30分未満	
基礎教養入門	66.2%	74	49	必修だから	幅広い教養	4.61	4.63	4.59	4.71	4.65	4.51	0.0%	0.0%	6.1%	8.2%	85.7%
倫理学	72.2%	18	13	必修だから	幅広い教養	4.38	4.46	4.31	4.85	4.38	4.77	0.0%	0.0%	7.7%	46.2%	46.2%
経済学	62.5%	56	35	必修だから	幅広い教養	4.54	4.57	4.54	4.74	4.60	4.49	0.0%	0.0%	5.7%	20.0%	74.3%
幼児と健康	87.8%	74	65	必修だから	自分の専門と関連	4.66	4.69	4.63	4.69	4.65	4.69	1.5%	0.0%	3.1%	13.8%	81.5%
幼児と環境	94.6%	74	70	必修だから	授業への関心	4.60	4.54	4.53	4.86	4.79	4.61	1.4%	4.3%	15.7%	35.7%	42.9%
幼児と言葉	89.2%	74	66	必修だから	自分の専門と関連	4.30	4.36	4.44	4.48	4.33	4.27	1.5%	0.0%	7.6%	18.2%	72.7%
幼児教育者論	94.6%	74	70	必修だから	自分の専門と関連	4.64	4.70	4.70	4.80	4.74	4.59	1.4%	0.0%	1.4%	25.7%	71.4%
教育原理	91.9%	74	68	必修だから	自分の専門と関連	3.94	4.04	3.93	4.35	3.82	4.00	0.0%	1.5%	5.9%	25.0%	67.6%
教育の方法と技術	95.9%	74	71	必修だから	授業への関心	4.58	4.58	4.49	4.77	4.75	4.58	0.0%	2.8%	15.5%	36.6%	45.1%
教育実習指導	93.2%	74	69	必修だから	自分の専門と関連	4.75	4.77	4.71	4.83	4.78	4.62	1.4%	0.0%	4.3%	18.8%	75.4%
幼児と音楽A(器楽)	95.9%	74	71	必修だから	自分の専門と関連	4.83	4.86	4.80	4.82	4.82	4.85	11.3%	16.9%	25.4%	32.4%	14.1%
幼児と造形A	87.8%	74	65	必修だから	授業への関心	4.78	4.77	4.82	4.82	4.82	4.83	1.5%	0.0%	6.2%	20.0%	72.3%
社会福祉概論	79.7%	74	59	必修だから	幅広い教養	4.71	4.68	4.71	4.63	4.73	4.53	0.0%	0.0%	5.1%	20.3%	74.6%
保育原理	89.2%	74	66	必修だから	自分の専門と関連	4.42	4.45	4.38	4.67	4.41	4.47	0.0%	0.0%	4.5%	25.8%	69.7%
社会的養護 I	14.9%	74	11	必修だから	自分の専門と関連	4.18	4.27	4.09	4.36	3.82	3.73	0.0%	0.0%	9.1%	27.3%	63.6%
子どもの保健 I	89.2%	74	66	必修だから	自分の専門と関連	3.39	3.47	3.56	3.73	3.26	3.27	1.5%	0.0%	1.5%	22.7%	74.2%
子どもの食と栄養A	39.5%	38	15	必修だから	授業への関心	4.47	4.53	4.40	4.60	4.20	4.47	0.0%	6.7%	6.7%	26.7%	60.0%
子どもの食と栄養B	47.4%	38	18	必修だから	授業への関心	4.39	4.56	4.50	4.50	4.39	4.44	0.0%	0.0%	5.6%	38.9%	55.6%
乳児保育 I	6.8%	74	5	必修だから	幅広い教養	4.20	4.40	4.60	4.20	4.20	4.40	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%
児童文化	90.5%	74	67	必修だから	自分の専門と関連	4.72	4.70	4.69	4.70	4.70	4.64	3.0%	4.5%	13.4%	29.9%	49.3%
子どもの生活と福祉	80.0%	15	12	幅広い教養	授業への関心	4.58	4.58	4.42	4.50	4.58	4.50	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	91.7%

令和5年度 授業改善アンケート 2年 前期

科目名	回答率	履修者数	回答数	動機	動機之	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教え方平均	コミュニケーション平均	勉強時間平均(%)			
												3時間以上	1~2時間	30分~1時間	
日本国憲法	23.2%	82	19	必修だから	幅広い教養	3.42	3.58	3.16	3.74	3.21	3.21	0.0%	15.8%	10.5%	73.7%
保育内容(健康)	82.7%	81	67	必修だから	幅広い教養	4.34	4.34	4.30	4.51	4.31	4.19	0.0%	7.5%	11.9%	80.6%
保育内容(人間関係)	72.0%	82	59	必修だから	幅広い教養	4.42	4.49	4.41	4.73	4.56	4.47	0.0%	6.8%	15.3%	78.0%
保育内容(言葉)	90.2%	82	74	必修だから	幅広い教養	4.30	4.26	4.24	4.39	4.26	4.23	0.0%	6.8%	6.8%	86.5%
保育内容(表現(音楽))	84.1%	82	69	必修だから	幅広い教養	4.58	4.59	4.55	4.61	4.58	4.64	1.4%	8.7%	17.4%	71.0%
保育内容(表現(造形))	68.3%	82	56	必修だから	幅広い教養	4.61	4.59	4.66	4.61	4.66	4.66	0.0%	5.4%	8.9%	85.7%
保育内容(表現(身体))	84.1%	82	69	必修だから	幅広い教養	4.68	4.67	4.62	4.78	4.74	4.72	0.0%	7.2%	8.7%	82.6%
幼児の理解と教育相談	70.7%	82	58	必修だから	幅広い教養	3.81	3.81	3.62	3.83	3.43	3.40	0.0%	6.9%	13.8%	79.3%
子どもの健康と安全	35.4%	82	29	必修だから	必修だから	4.52	4.52	4.41	4.59	4.48	4.52	0.0%	6.9%	6.9%	86.2%
社会的養護Ⅰ	73.2%	82	60	必修だから	幅広い教養	4.57	4.57	4.53	4.58	4.57	4.60	0.0%	6.7%	5.0%	88.3%
介護福祉論Ⅰ	88.9%	27	24	必修だから	自分の専門と関	4.88	4.88	4.92	4.96	4.92	4.88	0.0%	16.7%	4.2%	79.2%
保育実践研究Ⅲ(集中)	85.7%	49	42	授業への関心	自分の専門と関	4.86	4.86	4.86	4.86	4.79	4.83	0.0%	16.7%	14.3%	69.0%

授業改善アンケート 専攻科 前期

科目名	回答率	履修者数	回答数	動機1	動機2	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教え方平均	コミュニケーション平均	勉強時間平均(%)				
												30時間以上	2~30時間	1~2時間	30分~1時間	30分未満
社会の理解	75.0%	12	9	必修だから	幅広い教養	4.33	4.56	4.11	4.44	4.44	4.56	0.0%	0.0%	11.1%	22.2%	66.7%
介護の基本Ⅱ	75.0%	12	9	必修だから	自分の専門と関	4.33	4.44	4.44	4.44	4.44	4.56	0.0%	0.0%	11.1%	22.2%	66.7%
介護の基本Ⅲ	16.7%	12	2	必修だから	自分の専門と関	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
コミュニケーション技術Ⅰ	83.3%	12	10	必修だから	幅広い教養	4.40	4.30	4.20	4.50	4.10	4.30	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	90.0%
生活支援技術Ⅰ	75.0%	12	9	必修だから	自分の専門と関	4.56	4.56	4.67	4.78	4.67	4.67	0.0%	11.1%	11.1%	22.2%	55.6%
生活支援技術Ⅱ	75.0%	12	9	必修だから	自分の専門と関	4.56	4.56	4.67	4.67	4.67	4.67	0.0%	0.0%	33.3%	22.2%	44.4%
生活支援技術Ⅲ	83.3%	12	10	必修だから	幅広い教養	4.50	4.60	4.60	4.80	4.70	4.60	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	80.0%
生活支援技術Ⅳ	58.3%	12	7	必修だから	幅広い教養	3.86	3.86	3.86	4.00	3.86	3.71	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
介護過程Ⅰ	75.0%	12	9	必修だから	自分の専門と関	4.67	4.56	4.67	4.78	4.67	4.67	0.0%	0.0%	22.2%	44.4%	33.3%
介護過程Ⅱ	75.0%	12	9	必修だから	自分の専門と関	4.56	4.67	4.67	4.56	4.56	4.67	0.0%	0.0%	11.1%	33.3%	55.6%
介護総合演習Ⅰ	75.0%	12	9	必修だから	自分の専門と関	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	88.9%
発達と老化の理解	58.3%	12	7	必修だから	自分の専門と関	4.57	4.57	4.57	4.57	4.57	4.57	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	57.1%
こころからのくみこみⅠ	66.7%	12	8	必修だから	自分の専門と関	4.63	4.75	4.75	4.75	4.75	4.75	0.0%	0.0%	37.5%	37.5%	25.0%
医療的ケアⅠ	66.7%	12	8	必修だから	自分の専門と関	4.50	4.75	4.63	4.63	4.63	4.63	0.0%	0.0%	37.5%	25.0%	37.5%

令和5年度 授業改善アンケート 1年 後期

科目名	回答率	履修者数	回答数	動機1	動機2	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教え方平均	コミュニケーション平均	勉強時間平均(%)				
												30分以上	2~30時間	1~20時間	30分~1時間	30分未満
英語コミュニケーション	60.3%	73	44	必修だから	幅広い教養	3.98	4.05	3.70	4.30	3.80	3.95	0.0%	2.3%	22.7%	40.9%	34.1%
介護技術演習	96.0%	25	24	幅広い教養	教員の魅力	4.71	4.75	4.75	4.83	4.75	4.79	0.0%	0.0%	4.2%	20.8%	75.0%
介護福祉総論 I	64.0%	25	16	幅広い教養	授業への関心	4.50	4.56	4.63	4.50	4.56	4.38	0.0%	0.0%	6.3%	6.3%	87.5%
教育心理学	82.2%	73	60	必修だから	幅広い教養	4.27	4.32	4.23	4.55	4.35	4.30	0.0%	0.0%	8.3%	16.7%	75.0%
子どもの食と栄養A	80.6%	36	29	必修だから	幅広い教養	4.62	4.66	4.59	4.52	4.41	4.59	0.0%	0.0%	3.4%	10.3%	86.2%
子どもの食と栄養B	44.4%	36	16	必修だから	幅広い教養	4.50	4.63	4.50	4.56	4.44	4.50	0.0%	0.0%	6.3%	12.5%	81.3%
子ども家庭支援法	18.1%	72	13	必修だから	幅広い教養	4.31	4.31	4.23	4.38	4.23	4.23	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	92.3%
子ども家庭福祉	26.4%	72	19	必修だから	幅広い教養	4.16	4.32	4.11	4.26	4.32	4.26	5.3%	0.0%	0.0%	10.5%	84.2%
総合科目	77.4%	31	24	必修だから	幅広い教養	4.04	4.08	4.04	4.29	4.17	4.00	0.0%	0.0%	4.2%	25.0%	70.8%
体育講義	90.4%	73	66	必修だから	幅広い教養	4.39	4.45	4.21	4.41	4.32	4.14	1.5%	0.0%	1.5%	25.8%	71.2%
乳児保育Ⅱ	17.8%	73	13	必修だから	単位取得が容易	4.62	4.77	4.54	4.62	4.62	4.62	0.0%	0.0%	7.7%	23.1%	69.2%
発達心理学	79.2%	72	57	必修だから	幅広い教養	4.19	4.28	4.23	4.42	4.16	3.98	0.0%	0.0%	3.5%	24.6%	71.9%
文学	75.0%	16	12	必修だから	授業への関心	4.00	4.17	4.00	4.50	4.17	4.17	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	83.3%
保育・教育課程論	27.4%	73	20	必修だから	幅広い教養	4.45	4.50	4.45	4.50	4.35	4.30	0.0%	0.0%	10.0%	25.0%	65.0%
保育実習指導Ⅰ	79.5%	73	58	必修だから	幅広い教養	4.50	4.52	4.45	4.55	4.53	4.45	1.7%	0.0%	6.9%	20.7%	70.7%
保育実践研究Ⅱ	81.5%	54	44	必修だから	自分の専門と関連	4.41	4.48	4.48	4.61	4.48	4.52	4.5%	2.3%	20.5%	38.6%	34.1%
保育内容(環境)の指導	84.9%	73	62	必修だから	幅広い教養	4.44	4.48	4.39	4.60	4.50	4.50	0.0%	0.0%	16.1%	17.7%	66.1%
保育内容指導法	86.3%	73	63	必修だから	幅広い教養	4.48	4.51	4.41	4.60	4.54	4.48	0.0%	0.0%	9.5%	27.0%	63.5%
保育内容総論	81.9%	72	59	必修だから	幅広い教養	4.47	4.47	4.44	4.54	4.56	4.54	0.0%	1.7%	5.1%	15.3%	78.0%
幼児と音楽(器楽)	47.9%	73	35	必修だから	必修だから	4.69	4.60	4.63	4.63	4.60	4.60	8.6%	17.1%	20.0%	45.7%	8.6%
幼児と人間関係	76.7%	73	56	必修だから	自分の専門と関連	4.25	4.29	4.20	4.46	4.29	4.21	0.0%	0.0%	8.9%	23.2%	67.9%
幼児と表現	82.2%	73	60	必修だから	幅広い教養	4.50	4.55	4.52	4.58	4.55	4.58	0.0%	1.7%	1.7%	15.0%	81.7%

令和5年度 授業改善アンケート 2年 後期

科目名	回答率	属修者数	回答数	動機1	動機2	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教え方平均	コミュニケーション平均	勉強時間平均(%)				
												3時間以上	1~2時間	30分~1時間		
教育の制度と経営	72.8%	81	59	必修だから	幅広い授業	4.14	4.20	4.12	4.37	4.03	4.10	0.0%	8.5%	10.2%	81.4%	
子どもの保健Ⅱ	35.5%	31	11	必修だから	幅広い授業	4.64	4.73	4.82	4.64	4.64	4.73	0.0%	9.1%	18.2%	63.6%	
子ども家庭支援論	68.8%	80	55	必修だから	幅広い授業	4.71	4.69	4.65	4.65	4.67	4.69	0.0%	7.3%	5.5%	87.3%	
子育て支援	87.7%	81	71	必修だから	幅広い授業	4.39	4.48	4.44	4.54	4.45	4.30	0.0%	8.5%	2.8%	88.7%	
特別支援習	75.0%	80	60	必修だから	幅広い授業	4.55	4.57	4.55	4.53	4.48	4.50	0.0%	3.3%	6.7%	90.0%	
特別支援教育入門	55.6%	81	45	必修だから	幅広い授業	4.18	4.20	4.13	4.38	4.07	4.18	0.0%	2.2%	8.9%	4.4%	84.4%
保育実践実習Ⅱ幼1	68.8%	80	55	必修だから	幅広い授業	4.47	4.55	4.44	4.53	4.44	4.44	0.0%	0.0%	5.5%	9.1%	85.5%
保育原理Ⅱ	55.6%	27	15	授業への関心	教員の魅力	4.53	4.67	4.73	4.87	4.60	4.67	0.0%	0.0%	13.3%	20.0%	66.7%
保育実習指導Ⅱ	90.0%	80	72	必修だから	自分の専門と関連	4.67	4.64	4.63	4.57	4.56	4.51	2.8%	2.8%	5.6%	9.7%	79.2%
保育実践研究Ⅰ	80.0%	40	32	必修だから	幅広い授業	4.56	4.63	4.56	4.56	4.47	4.56	0.0%	0.0%	3.1%	9.4%	87.5%
幼児と遊びB	72.5%	69	50	必修だから	幅広い授業	4.70	4.66	4.66	4.64	4.72	4.68	0.0%	2.0%	6.0%	6.0%	86.0%

令和5年度 授業改善アンケート 専攻科 後期

科目名	回答率	履修者数	回答数	動機1	動機2	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教え方平均	アンケート シヨジ平均	勉強時間平均(%)				
												3時間以上	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分未満
こころからのくみⅡ	100.0%	12	12	必修だから	幅広い教養	4.67	4.83	4.75	4.92	4.83	4.75	8.3%	16.7%	41.7%	33.3%	0.0%
コミュニケーション技術Ⅱ	66.7%	12	8	必修だから	幅広い教養	4.63	4.75	4.75	4.75	4.63	4.75	0.0%	12.5%	12.5%	25.0%	50.0%
医療的ケアⅠ	75.0%	12	9	必修だから	幅広い教養	4.78	4.89	4.78	4.89	4.89	4.89	0.0%	22.2%	22.2%	44.4%	11.1%
介護の基本Ⅰ	58.3%	12	7	必修だから	自分の専門と関連	4.57	4.57	4.71	4.71	4.57	4.57	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	57.1%
介護の基本Ⅳ	66.7%	12	8	必修だから	幅広い教養	4.63	4.63	4.75	4.75	4.63	4.63	0.0%	12.5%	12.5%	50.0%	25.0%
介護の基本Ⅴ	75.0%	12	9	必修だから	幅広い教養	4.56	4.67	4.78	4.67	4.56	4.56	0.0%	11.1%	0.0%	55.6%	33.3%
介護過程Ⅲ	66.7%	12	8	必修だから	幅広い教養	4.50	4.75	4.63	4.75	4.50	4.63	0.0%	12.5%	25.0%	37.5%	25.0%
介護総合演習Ⅰ	66.7%	12	8	必修だから	幅広い教養	4.75	4.75	4.75	4.75	4.63	4.63	0.0%	12.5%	12.5%	37.5%	37.5%
社会福祉演習	75.0%	12	9	必修だから	幅広い教養	4.56	4.78	4.56	4.67	4.56	4.56	0.0%	11.1%	11.1%	33.3%	44.4%
障害の理解	75.0%	12	9	必修だから	幅広い教養	4.56	4.78	4.78	4.67	4.67	4.56	0.0%	11.1%	11.1%	55.6%	22.2%
生活支援技術Ⅴ	66.7%	12	8	必修だから	幅広い教養	4.75	4.75	4.63	4.75	4.63	4.63	0.0%	12.5%	25.0%	25.0%	37.5%
生活支援技術Ⅵ	66.7%	12	8	必修だから	自分の専門と関連	4.75	4.63	4.25	4.88	4.63	4.88	0.0%	0.0%	12.5%	37.5%	50.0%
生活支援技術Ⅶ	8.3%	12	1	必修だから	幅広い教養	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
認知症の理解	91.7%	12	11	必修だから	幅広い教養	4.64	4.82	4.73	4.91	4.82	4.73	9.1%	18.2%	18.2%	54.5%	0.0%